

岸宏一さん追悼会のご報告



<1>

昨年 2017 年 3 月 26 日(日)、私たちのかけがえのない友人である岸宏一さんが谷川連峰の西に位置する東谷山での山スキーで遭難しました。それから 1 年たった去る 3 月 24 日(土)、遭難の地で岸宏一さんの追悼会をもちました。

当日の昼、新潟県の越後湯沢駅前に集合し、そこから田代スキー場に向かい、ロープウェイで田代山頂に登りました。

山頂に、岸さんの遺影を置き、全員で黙禱し、各人の思いを込めて献花しました。遺影に使ったのは、映画『三里塚のイカロス』に登場した岸さんの画像の一つ、快活に笑っている顔写真です。

山頂からは岸さんが山スキーを試みようとして遭難した東谷山が望めました。雪に覆われたまことに厳しい山の姿でした。昨年は雪がもっと深かったそうです。そして、眼下には、リュックサックのみが発見された清津川が見えました。ここで岸さんが遭難したのかと思うと、言いようのない、やり場のない思いが胸にこみあげてきました。

この日は、幸いにも快晴で風一つなく、岸さんが遭難した現場を皆で心おきなく、ゆっくりと眺めることができたのでした。

その後、岸さんが出発点とした旅館で、偲ぶ会を催しました。

お連れ合いを始めとするご家族、ご親族が出席され、一人一人ご挨拶をされました。友人たちが、こもごも岸さんへの哀悼の気持ちを述べたのでした。

在りし日の岸さんが中核派全学連のリーダーとして活動した学生時代、東京・南部地区委員会の委員長として苦闘した地区党建設の闘い、動労カクマルの支配を食い破って決起した動労千葉への支援の先頭で示した傑出した奮闘、その後、三里塚の現闘責任者として縦横の活動を展開した日々、誰もが一目も二目も置いた創意工夫の指導ぶり……。

さまざまなエピソードが紹介され、粹にはまらない実に個性的な活動家だった岸さんの人生とその人柄を偲びました。

この日は、遭難の現地であるにもかかわらず、22人が集いました。

革共同創成以来の古参の先輩、慶応大学アメリカンフットボール部時代の仲間、群馬県立渋川高校時代の同輩、三里塚現闘の仲間、30年ぶりに再会した友人などなど。当日参加できず、伝言メッセージを寄せた友人・知人も少なくありませんでした。

また翌日には、有志数人が岸さんを偲んで追悼山行を実施しました。昨年と比べて雪が少なかったのですが、天候に恵まれ、無事に滑ることができました。

<2>

岸宏一さんが遭難した2017年3月26日から1年……。

知らせを受けてただちに友人たちで捜索チームを編成し、危険を承知で懸命の捜索活動を重ねました。現地の警察・消防・山岳警備隊による初期捜索とは別に、独自に4次にわたって計8回・18日を投入しました。地元の山岳捜索のベテランのアドバイスを受けて、想定しうるケースすべてを踏査し尽しました。危うく事故になりかねない局面もありました。

それ以外にご家族と一緒に現地を視察しました。

にもかかわらず、清津川の中州に乗り上げていたリュックサックを発見した以外には、ついに岸さんの遺体は山中にも、崖下にも、清津川の中や川辺にも、どこにも発見されませんでした。今から思えば、リュックサックの発見は、状況から見て奇跡的なことであり、捜索チームの執念の賜でした。

遺体が発見されないため、岸さんの死亡がリアルに迫ってきません。

私たちはしかし、この日の追悼会をもって、岸さんが遭難死した事実を、つらいことですが厳粛に確認したのでした。享年69。

振り返ればこの1年、多くの友人の皆さんが捜索のためのカンパを寄せてくれました。総額で約250万円が集まりました。

ほとんどすべて捜索チームの活動費用に使わせていただきました。私家版映画『夢が叶うと思えた時代』(代島治彦監督撮影・編集)の製作費にも使いました。

その若干の残余がありましたので、ご家族へのお見舞いとなりました。

この度も少なからぬ人たちが香典を出して下さいましたので、ご遺族にお渡ししました。

とくに会計報告はしませんが、上記、ご確認くださいませ。

皆様からのご厚情に心から感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。岸宏一さんも喜んでることと思います。

<3>

岸さんが、権力打倒の闘いとラディカル左翼の歴史の教訓化のために、まだまだ活動できたのに、遭難死したとは、ほんとうに残念でなりません。本多延嘉革共同書記長を尊敬し、その遺志を継いで決意を日々新たにしてきた岸宏一。

持ち前の天才的とも言える才能を発揮して、大衆運動、地区党建設、三里塚支援の闘い、対カクマル戦や対権力ゲリラ戦の幾多の武装闘争指導に携わってきた岸宏一。

2006年3・14党内テロ・リンチに際会し、不屈に闘うも党内闘争で敗れ、清水丈夫、中野洋ら政治局の誤りと墮落と決別するとともに、自らの過ちをとらえ返し、きっぱりと離党した岸宏一。

本多書記長の遺訓を胸に、痛切な自己批判的総括をかけ、次の闘いを展望しつつ、共著『革共同政治局の敗北 1975～2014 あるいは中核派の崩壊』を世に問うた岸宏一。

映画『三里塚のイカロス』出演の機会を得て、三里塚農民の闘いの意義とそこへの中核派のかかわりの誤りを率直に認め、三里塚への思いを満身で表現した岸宏一。私家版DVD『夢が叶うと思えた時代——岸宏一 1960年代～三里塚の日々』(代島治彦監督編集)でも、革共同と自らの闘いの総括を開き直ることなく真摯に語った岸宏一。今となっては、これらは岸宏一の遺言ともなったのでした。

岸さんの遺志を明確にさせ、それを引き継いで、遺された者の責務を果たさねばならないと思います。万感の思いを込め、心から岸宏一さんへの哀悼の意を表します。

以上、報告と御礼とします。2018年3月28日 岸宏一さん追悼会実行委員会